

平成30年度

研究紀要

第32号

川崎市総合教育センター

はじめに

本市におきましては、平成27年度から第2次川崎市教育振興基本計画「かわさき教育プラン」がスタートしました。平成30年度からは第2次実施計画に基づき、第1期の成果と課題を踏まえつつ、キャリア在り方生き方教育をはじめ様々な教育活動が推進されているところと存じます。また、平成29年3月には小・中学校、4月には特別支援学校小・中学部、平成30年3月には高等学校の新学習指導要領が示されました。育成を目指す資質・能力を明らかにし、社会と連携及び協働してその実現を図る「社会に開かれた教育課程」の実現が求められています。

このような中、川崎市総合教育センターでは、皆様のご理解・ご協力のもと、各学校の教育活動のさらなる充実に向けた支援や、教職員の資質・能力の向上、教育の情報化、特別支援教育や教育相談の相談体制確立などの役割を担ってまいりました。平成28年度には創立30周年を迎え、変化の激しい社会を生き抜く子どもたちの育成を目指し、実践研究主題を「未来を創り、社会を生き抜く資質・能力の育成」と設定しました。平成30年度もこの研究主題を引き継ぎ、「実践研究」に取り組むとともに、「調査・基礎研究」「各研究所等との共同研究」「施策研究」を進めてまいりました。

「実践研究」では、「道徳」、「外国語教育」、「習熟の程度に応じたきめ細やかな指導」、「主体的・対話的で深い学び」、「情報教育」、「特別支援教育」の6つの研究会議に長期研究員を各1名、中学校のカウンセラー研究に研究員を1名配置するとともに、指導主事と研究員による研究会議を5つ設置し研究を進めてまいりました。また「調査・基礎研究」では、各室の指導主事が教育活動及び児童生徒に係る調査研究を進めてまいりました。

ここに、平成30年度に終結した各研究会議の研究内容を、研究紀要第32号としてまとめることができました。この研究紀要が、これからの皆様のご授業等のさらなる充実や改善に少しでも役立つことができれば幸いです。また本研究に関して、ぜひ、忌憚のないご意見ならびにご指導をいただければ、幸いに存じます。

最後になりましたが、それぞれの研究に対しまして、ご指導ご助言いただきました川崎市総合教育センター専門員の方々をはじめ、お力添えいただきました全ての方々に厚く御礼申し上げます。

2019年（平成31年）3月

川崎市総合教育センター
所長 小松典子

目 次

川崎市総合教育センターの研究の推進 P 1

情報・視聴覚センター調査・基礎研究

「情報活用能力育成のためのモデルカリキュラムの作成に係る研究
ー教育情報化推進モデル校の実践を通してー」 P5

道徳研究会議

「「考え、議論する道徳」をめざした授業と評価の研究」 P13

外国語教育研究会議

「中学校英語への円滑な接続をめざした文字指導の工夫
ー音韻認識能力を高める活動を通してー」 P33

習熟の程度に応じたきめ細やかな指導研究会議

「数量関係を正しく捉えるための問題把握の工夫
ー自ら図形化することで、見通しをもって取り組む児童生徒の育成ー」 P53

主体的・対話的で深い学び研究会議

「「深い学び」の視点からの授業改善に関する考察
ー学びの自覚を促し資質・能力の育成を図るー」 P73

情報教育研究会議

「小・中学校におけるプログラミング教育の研究
ープログラミング的思考を育む学習活動の工夫ー」 P93

特別支援教育研究会議

「個と集団のつながりを意識した自立活動をめざして

－自己選択・自己決定の視点から－ P113

音楽科研究会議

「音楽的な見方・考え方を働かせるための効果的な指導の手立ての研究

－〔共通事項〕を要とした授業の展開－ P133

体育・保健体育科研究会議

「資質・能力の育成を目指した授業改善

－「主体的・対話的で深い学び」を通して－ P139

健康教育研究会議

「「しなやかな心」を育む健康教育

－個別の保健指導につなげるために－ P145

高校教育研究会議

「統合的な言語活動を通じたコミュニケーション能力の育成」 P151

学校教育相談研究会議

「児童生徒どうしのつながりを育む教育相談的なかわり

～指導の振り返りを通して～ P157

カウンセラー研究員による研究

「教育相談を生かした生徒指導の在り方

－生徒指導担当に求められる力を探る－ P163